

世界科学フォーラム（World Science Forum : WSF）について

日本学術会議 第26期
記者会見(令和6年11月28日)
資料2

概要

- 科学コミュニティと社会、政策立案者、産業界の対話を促進する政策フォーラム。
- 1997年、国連教育科学文化機関（UNESCO）総会において、21世紀の科学のあり方について分野横断的な協議を行うために世界的な科学者の会議の開催を決定。（国際科学会議(ICSU)が共催を決定）
- 1999年にブダペストで開催された世界科学会議を前身とし、2003年以降、世界科学フォーラムを隔年で開催。
- 日本学術会議は代表者を積極的に派遣し会合へ参加。第26期では、WSF運営委員会の一員としてプログラム審議や宣言ドラフト審議などに参画。

世界科学フォーラムに協力する6つのパートナー機関（2024年11月現在）

パートナー機関
国際連合教育科学文化機関（UNESCO）
国際学術会議（ISC）
インターアカデミーパートナーシップ（IAP）
世界科学アカデミー（TWAS）
欧州科学アカデミー諮問委員会（EASAC）
アメリカ科学振興協会（AAAS）



世界科学フォーラム2024（World Science Forum2024）について

- 11月20日～23日にかけて、ハンガリー科学アカデミー主催のもと、ブダペストにおいて世界科学フォーラム2024が開催され、運営委員会委員として日比谷副会長（国際活動担当）が参加。
- 122か国・地域から1000人を超える科学者、政策立案者、産業界及びメディア関係者等が一堂に会し、全体テーマ“The science and policy interface at the time of global transformations”「地球規模の変革の時代における科学と政策のインターフェース」のもと、4つの個別テーマに関するプレナリースセッション、閣僚級会合等を開催。日本からは、梶田隆章前会長、小池俊雄前会員がプレナリースピーカーとして登壇。

4つの個別テーマ

- 科学への信頼
- 未来サミット
- リスクアセスメント
- 科学における協力、調整、ガバナンス

- 運営委員会では、本フォーラムの成果であるWSF2024宣言ドラフトについて議論。参加者との意見交換ののち、23日に開催された閉会式において採択。

運営委員会における議論の様子



ハンガリー国会議事堂における閉会式



- 2026年会合はインドネシアにて開催予定。